

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 写真をもとに話そう～写真の展覧会へようこそ～

2 単元の目標

○伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話すことができる。

(話すこと・聞くこと)

○話の中心に気を付けて聞き、自分の考えとの共通点や相違点に気付くことができる。

(話すこと・聞くこと)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・写真から読み取ったり、想像したりしたことを伝え合おうとしている。	・スピーチにしたい写真を決め、読み取ったことをメモにまとめている。 (1) ア ・読み取ったこと、組み立てに気を付けて話している。(1) イ ・話の中心に気を付けて聞き、自分の考えとの違いを考えながら、感想を伝えている。(1) エ	・聞き手に伝えたいことをはっきりわかりやすく話している。 (1) イ (オ)

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例「ウ図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり聞いたりすること。」を具現化し、3年生に向けて写真の展覧会を開き、選んだ写真につけた題名を説明する活動を、単元を貫く言語活動として位置付ける

本単元は、児童一人一人が好きな写真を選び、題名を付けてその写真を見て気付いたことや想像したことを含めて自分の考えを持ち、読み取ったことの方が分かるように話を組み立て、スピーチする学習である。読み取ったことの方が自分が一番伝えたいことであり、それを題名とし、児童はなぜその題名を付けたのかをスピーチの中で説明していく。「最初に感じたこと」と、「気付いたこと」「想像したこと」をもとにして題名を付けた理由が明確に伝わるようにスピーチメモを作っていく。そのために、読み取ったことを箇条書きで書き、自由に貼り付けたり、位置を変えたり、付け加えたりできるように「組み立てメモ」という付箋を使用してスピーチメモを作っていく。このようにすることで、児童は一番伝えたいことがはっきりと伝わるように組み立てを考え、意欲的にスピーチメモを作る活動に取り組むことができると考える。スピーチを聞き合う際には、聞き手は感想を伝えるときに、自分の考えと共通点や相違点を伝えるようにする。そのため、聞き手が選んでいない写真でも自分の考えがもてるように、あらかじめ全ての写真に対して読み取ったことをワークシートに書き、発表の時に、話し手のスピーチの前にワークシートを確認して自分の考えをもつ時間を取るようにする。そうすることで、共通点や相違点を意識してスピーチを聞くことができると考える。

写真は、第一印象や背景、大きさ、位置、色合い、様子や被写体の心情や会話、周囲に映っているものとの関わりが容易に想像しやすい写真を教師が選び、児童に提示するようにする。児童の希望によるが、選んだ人数が一枚の写真に対し1人から2人になるように教科書に提示されている2枚の写真に追加して全部

で9枚とした。その際、被写体を「植物グループ」「動物グループ」「海の生き物グループ」「昆虫グループ」と4つのグループに分けられるようにし、グループ活動の人数を少人数にできるようにする。また、児童が写真に対して自分の考えをもつときに、自然の中に生きる生命の力強さを感じてもらいたいと考えられるような写真を選択した。

本校では、運動会や水泳学習など、ペア学年である3年生と活動する機会が多い。その3年生に自分が選んだ写真を紹介するという学習のゴールとして設定することで、スピーチに対する意欲が高まると考えられる。写真を紹介するときには実物の大きさに合わせて写真を拡大し、指示棒を使うなど自分の伝えたいことが工夫して伝えられるようにさせる。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、学習指導要領「A 話すこと・聞くこと」における指導事項イ「相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、適切な言葉遣いで話すこと。」と指導事項エ「話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。」を受けて設定している。そこで、本単元では一枚の写真から読み取ったことや想像したことを、題名を付けるなどしてはっきりさせ、理由などを挙げながら、組み立てを考えて適切な言葉遣いで話す力を育てる。また、聞き手は、話の中心に気を付けて聞き、自分の考えとの共通点や相違点と比較しながら質問したり感想を述べたりする力を育てる。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

①継続的な話す・聞く活動（スピーチ）

本学級では、毎朝日直によるスピーチを行っている。テーマは毎回教師が行事や季節などに合わせて設定し、内容は5文以上と制限を付けている。5文以上とすることで、児童はどんな順番でスピーチをしようか自然と順番を組み立てながら準備をしてくるだろう。自分が一番伝えたいことはどんなことなのかに注目させ、そのことについて詳しく説明できるように組み立てを考えられるようにしていきたい。また、スピーチする時の言葉遣いや声の大きさ、抑揚など基本的な技能も身に付けられるように指導していく。

聞く活動についても、共通のテーマでのスピーチにすることで、自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞くことができるだろう。ただ、スピーチ後に質問したり感想を言ったりするのではなく、自分との共通点や相違点を感想の中で伝えられるようにしていきたい。

②「心のスケッチノート」による表現集め

児童は「心のスケッチをしよう」で、「うれしい」や「悲しい」などの気持ちを素直に表す言葉を使わずに、その気持ちを表す別の表現を使うことを学習した。学習後も生活の中で心が動いた時の様子を思い出して、定期的に「心のスケッチノート」に短い文章で書いている。その中から教師や児童同士が選んだ良い表現を「表現の達人メモ」という形でまとめていき、「心のスケッチコーナー」を教室に作り、掲示していく。「表現の達人メモ」では、「うれしい気持ち」や「悲しい気持ち」など、場面に応じた気持ちごとに仲間分けしていき、いつでも参考にできるようにしている。そうすることで、普段の活動でもより良い表現や使ったことのない表現を自ら活用することができ、本単元でのスピーチでも抵抗なく活用できるようになると考える。また、「表現の達人メモ」は本単元に入るときに児童に配付することで活用しやすくなると思う。

③朝学習を活用した取り組み「この絵の題名何にする？」

朝学習の時間を使って教師が用意した絵に題名を付ける活動を行う。この活動は、絵に題名をつけることを通して、感じたことを短い言葉で表す力を付けることを目的とした活動である。また、どんな題名をつけたのか、なぜその題名にしたのか、話し合いで共有することで、人の考えと共通点や相違点があることの良さを味わわせたい。そうすることで、本単元の学習にも抵抗なく取り組むことができると考える。使用する絵は、児童があまり題名を知らないような絵画や、図工科のアートカードを用いる。初めは、学級全体で一つの絵の題名を考え、段階に応じてグループで一つの絵の題名を付けたり、好きな絵を選んで題名を考えたりする。児童を飽きさせないよう工夫して活動に取り組ませていく。

5 指導計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て◇評価（評価方法）
1	1	○3年生を招待して写真の展覧会を開き、自分のお気に入りの写真を紹介しようという意欲を持つ。 ○教科書を使い、学習の見通しをもつ。	・教師がスピーチのモデルを提示し、写真を紹介することに対する意欲を高める。 ・児童の気付きをもとに、学習計画を示す。
	2	○9枚の写真を鑑賞し、読み取ったことを「鑑賞メモ」に書く。 ○写真の中から、一番お気に入りの写真を選ぶ。	・興味をもって写真を選べるよう9枚の写真を拡大して用意しておく。 ・「最初に思ったこと」「気付いたこと」「想像したこと」の観点を示し、感じたことから鑑賞メモに書けるようにモデルを提示する。 ・写真を選ぶ手がかりとして、選ぶ観点を示す。
	3	○写真に題をつけ、読み取ったことをメモし、お気に入りの理由をまとめる。	・「最初に思ったこと」「気付いたこと」「想像したこと」「題名の説明」の項目ごとにバランスよく読み取ったことを書けるようにモデルを提示する。 ・題名が自分の一番伝えたいことになることを指導する。 ◇写真に題名を付けたり、お気に入りの理由をまとめたりしている。（ワークシート・付箋）
2	4	○お気に入りの理由を整理し、話の組み立てを工夫してスピーチメモを作る。 ○スピーチメモをもとにし、内容を考えて、スピーチの練習をする。	・自由に順番を組み替えられるよう、組み立てメモを書く付箋を児童に配る。 ・題名は他のメモと違う付箋を使い、どれが題名か明確になるようにする。 ・前時にメモした内容から、中心となる内容を選んで付箋に書いていくようなモデルを提示しながら指導する。 ・付箋に書くときに箇条書きで書くよう伝える。 ◇伝えたいことがはっきりとするように話の組み立てを考えてスピーチメモを作っている。 （スピーチメモ）
	5	○同じグループで発表を聞き合い、内容や話し方のアドバイスをし合う。 ○友達のアドバイスをもとに、スピーチの内容を見直し、練習する。 ○同じ写真のグループで発表を聞き合い、よくなったところを伝え合う。	・アドバイスの仕方のモデルを提示する。 ・アドバイスがたくさん出るように、1グループ3人～4人になるようにグループを編成する。 ・児童に赤色の付箋を配り、アドバイスを赤い付箋に書いてわたすように説明する。 ・全てのアドバイスをもとにするのではなく、必要と感じたアドバイスをもとにして、スピーチメモを修正することを伝える。 ・児童に青色の付箋を配り、よくなったところを青い付箋に書いて渡すよう説明する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・友達のアドバイスをもとに変わることのよさを確認する。 ◇伝えたいことをはっきりさせたり、題名の理由や読み取ったことを挙げながら筋道を立てたりしてスピーチしている。(スピーチ)
6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○違うグループでスピーチを聞き合い、感想を伝え合う。 ○友達の選んだ写真を見て、題名を付けたり、感想をもったりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ写真がいろいろなジャンルになるようにグループを編成する。 ・感想の伝え合いのモデルを提示する。 ・共通点や相違点を感想として伝え合うことを確認し、意識して聞くことができるようにする。 ・スピーチの前に写真を見る時間を取って、聞き手も写真に対する自分の考えをもち、共通点や相違点を感想で伝えられるようにする。 ◇伝えたいことをはっきりさせ、題名の理由や読み取ったことをあげながら筋道を立ててスピーチをしている。(スピーチ・ワークシート) ◇話の中心に気を付けて聞き、自分の考えとの共通点や相違点を伝えている。 (感想・ワークシート)
3	7	○3年生を招待して写真の展覧会を開き、自分のお気に入りの写真を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ写真ごとに分かれ、聞き手が必ず一人はいるように回る順番を工夫して設定する。 ◇伝えたいことをはっきりさせたり、題名の理由や読み取ったことを挙げながら筋道を立てたりしてスピーチしている。(スピーチ)

7 本時の目標と展開 (6 / 7)

(1) 本時の目標

○伝えたいことをはっきりさせ、題名の理由や読み取ったことを挙げながら筋道を立ててスピーチをしている。
(話すこと・聞くこと)

○話の中心に気を付けて聞き、自分の考えとの共通点や相違点を伝えている。
(話すこと・聞くこと)

(2) 本時の展開

学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を示しながら、スピーチメモをもとにして、違うジャンルの写真を選んだ人同士でグループを作ってスピーチをし、感想を伝え合う時間であることを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 友達と自分の考えを比べ、感じたことを伝え合おう。 </div>	
2 展覧会の進め方について確認する。 ・展覧会の流れを確認する。 ①写真を展示し、聞き手はその写真に対して自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会のスピーチが、しっかりとグループ内に聞こえるよう展覧会は体育館で行う。 ・選んだ写真が、いろいろなジャンルになるようにグループ編成をする。

- ②写真を示しながらスピーチを発表する。聞き手は聞く視点に気を付けてスピーチを聞く。
- ③聞き手は聞く視点をもとに感じたことを書き、全員が書き終わったら感想を伝える。
- ④全体の感想を踏まえて感じたことや思ったことを伝え合う。
 - ・話し合う時のルールを確認する。
 - ・自分の考えとの共通点や違う点を考えながら聞く。

- ・展覧会の流れはホワイトボードに掲示し、児童が確認できるようにする。
- ・2時間目に書いた「鑑賞メモ」を見返すことで、話し手の写真に対する自分の考えをもち、話し手と聞き手の共通点や相違点を比べやすくする。
- ・共通点や相違点を進んで伝え合えるように感想の伝え合いのモデルを提示する。
- ・教師のスピーチをもとに感想の伝え方を掲示し、自分が感じたことを伝えやすくなるようにする。
- ・聞く視点である「題名に込められた思いや考えに気を付けて聞く」「共通点や相違点を考えながら聞く」の2つを確認し、意識して聞くことができるようにする。
- ・写真は、実物の大きさに合わせて拡大したものを、イーゼルを使って掲示し、見やすくする。
- ・画板を持たせ、メモや感想を書きやすくする。
- ・感想は順番に発表していき、何かその感想に対して意見などがあれば全員が感想を言い終わった後にすることを確認する。
- ・感想が伝えられなかった児童がいたら、次の感想を言う人はその児童からになるように伝える。

3 写真の展覧会を開き、感想を伝え合う。

(感想)

- ・僕は種が石につぶされていて苦しいと思っていると思いましたが、〇〇さんは石をどかそうと種が必死になっていると聞いて、感じたことが全然違うと思いました。
- ・私はたんぼぼに注目して考えましたが、〇〇さんは綿毛の気持ちなどを考えていて、注目するところが違っておもしろいなと思いました。
- ・私も〇〇さんと一緒に、小さなクワガタが大きいクワガタに負けないぞと思っていると思いました。同じ考えでなんだかうれしいです。

- ・感想が思いつかない児童には、自分の考えと比べ、どう感じたか発表するように助言する。
- ・感想がどうしても思いつかない場合は、自分の考えを伝えるだけでもよいことを伝える。

【話し手】

- ◇伝えたことをはっきりさせ、題名の理由や読み取ったことをあげながら筋道を立ててスピーチをしている。(スピーチ・ワークシート)

【聞き手】

- ◇話の中心に気を付けて聞き、自分の考えとの共通点や相違点を伝えている。

(感想・ワークシート)

4 本時の学習を振り返り、感想を発表する。

- ・展覧会をしてどうだったのか、感想をワークシートに書く。
- ・感想を全体で共有する。
- ・次回は3年生を招待して展覧会をすることを確認する。

- ・共通点や相違点を伝え合って、どう感じたかを書くことができているか確認する。